NPO 法人千葉自然学校 ニュースレター

CNSニュースレター

～千葉の地から、千葉のチカラ～

2023 春
vol. 33



大豆を大鍋で茹でて…今年も古民家蔵醸造、ろくすけ味噌仕込んでいます。秋までしばし、お待ちください。（南房総市平久里下）

千葉自然学校は、持続可能な開発目標（SDGs）に取り組んでいます。

もくじ

□不易流行 …2
□ろくすけ日和 …3
□千葉シニア自然大学 …3
□現場レポート …4～5
□受託・ネットワーク事業 …6
□千葉県立君津亀山青少年自然の家 …7
□南房総市大房岬自然の家
千葉県立大房岬自然公園 …8～9
□ちば・体験活動ネットワーク
団体紹介・会員校フィールド紹介 …10～11
□千葉自然学校スタッフ紹介 …12

不易流行

理事長　久保田康雄

２０２２年度も新型コロナの蔓延、異常気象による猛暑、ウクライナ紛争による社会不安、電気料金を含む物価の高騰、などと本当に大変な年となりました。皆様におかれましては、どのような一年を過しましたでしょうか？





上の写真の活動は、今年の冬休みに行われたスノーキャンプの一コマです。子どもは嬉々としてそり遊びを楽しんでいます。そこであなたに問題です。もしあなたが自然体験活動の指導者だったら、この写真の状況を見てどんな危険が潜んでいると感じますか？少し考えてみてください…。

答えとしては、滑るコースに登ってくる子どもがいること。横一列になってスタートしたら、お互いにぶつかってしまうこと。コースをそれて木にぶつかってしまうこと。斜面の下は自然に止まれるよう状況なのか、などの危険な事柄を挙げるに違いありません。そして事故が起こらないような対策を立てることになるのでしょう。

さて、「生きる力」が中央教育審議会の答申に初めて登場したのは、１９９８年（平成１０）年であります。生きる力とは、「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」であると定義されています。また、２０２０年の新学習要領では、「主体的で、対話的で、深い学び」というアクティブラーニングの考え方が取り入れられています。まさに子どもが主体的に判断し、行動できるようになって欲しいという思いを込めた両教育施策であると言えます。

私たちもキャンプを通じて、子どもに自ら考え主体的に行動できるようになって欲しいと願っており、そのためにはどのような指導をしたらよいかいつも考えております。例えば、先ほどのそり遊びのシーンでは、「コースのまん中を歩かない」とか「一人ずつ滑る」とかのルールを指導者が先に言うのではなく、子どもに考えさせるようにするために、指示の出し方や出すタイミングなどを工夫します。

まず子どもをそり遊びをする前に集め、「これからそり遊びをしますが、この環境を見てどんなことが危険だと思いますか？」と、自然環境や活動にどんな危険潜んでいるのか、子どもに考えてもらうような質問をします。答えが出そろったなと思ったら次の質問です。「そのような危険を避けるためには、どうしたらいいと思いますか？」子どもから出された意見は、ルールとして全員で共有をします。そしてしばらくそり遊びをした時点で再度子どもを集め、同様な質問をします。今までのそり遊びの体験を踏まえて、先ほど出てこなかった危険要素と回避方法を再確認してルールに追加し、安全なそり遊びとなるような働きかけをします。

指導者として大切なことは、子どもが自分で考えたり、自ら判断したりできるようになるための「良い質問」をすることであります。良質な質問の仕方とは、イエスかノーで簡単に答えられるクローズドクエスチョンでの質問ではなく、自由に答えられるオープンクエスチョンで質問することが大切です。

もう一つ大切なことは、子どもの答えを待ってあげることです。子どもが答えを考えているうちに、指導者が答えを教えてしまうことはよくある話です。子どもがじっくり考え、自分の言葉で答えを出すまで、ゆっくり待ってあげる必要があるということです。

このようにして私たちは、キャンプの期間中、自ら考え、主体的に行動できるような機会をたくさん作るようにしています。例えば、同時刻にいくつものプログラムを設定し、子どもが自分の好みや想いに合わせてプログラムを選択するという方法や、朝のミーティングで今日一日どのように過ごすか、自ら考え、提案するような機会を作るなど、子どもの自主性を育むような指導をしてゆきたいと考えています。

千葉自然学校では、これからも子どもからシニアまで幅広い年代を対象に自然体験をはじめ、ＳＤＧｓや防災などをテーマにした活動を行ってゆきたいと思います。今後とも千葉自然学校を応援してくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

不易流行…いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものをも取り入れていくこと。
また、新味を求めて変化を重ねていく流行性こそが不易の本質であること。

ろくすけ日和『つながる活動』

千葉自然学校では、築200年の古民家を管理しています。南房総市平久里という地域にあり、周りは里山。まるで昔話のような場所です。
この家には屋号という昔からの愛称があり、皆から親しみを込めて「ろくすけ」と呼ばれています。シニア自然大学やヤックス自然学校のキャンプリーダーの力を借りて少しずつ整備を進め、子ども・大人のキャンプなどで皆が過ごしやすい場所を目指しています。時々テレビにも出ています！

ろくすけの２月、３月はとっぷり味噌づくりの日々。県内産大豆に平群米で作った麹でほぼ１トン仕込みました。数年来お仲間で作られる方、今年初めての方もあり、会話も弾み楽しい日々でした。

大房岬自然の家企画の「岬の楽校」の子どもや富山学園の中学３年生など地元からの参加もあり、活動が広がって来ました。折角地元の子どもとの関わりが出来たので、地域に根付いた取り組みにしたいと考え、中学生たちにイチジクの苗木を植えてもらうことにしました。数年かけてイチジク園に育て、ろくすけに来た折に木の様子を見たり、収穫したり、さらにうまくいけば学校給食で後輩たちにごちそう出来たらいいな…と夢見ています。

イチジクの木の根元には竹チップを敷きます。提供は中山間地域を応援したいと活動している流山高校の園芸科です。そして、棚田では安房高校の生物部のビオトープ作りも始まっています。今年も、いろいろなつながりが出来、新たな何かが起こりそうです。よろしくご支援をお願いします。

（文：遠藤陽子／サニー）



千葉シニア自然大学　～「南房総へ　巨大地震の痕跡を訪ねる」～

１月２４日、地震学者の宍倉正展先生の案内で、南房総の巨大地震の痕跡をたどりました。最初に向かったのは、館山市の見物海岸。宍倉先生がブラタモリで案内した海岸の岩礁を観察しました。波打ち際で平らになった岩礁が元禄地震や大正地震で隆起したこと、岩礁に固着したカキやフジツボなどの生物の遺骸がその証拠であることを学習しました。

次は白浜の「大規模海底地すべり地層」。安房グリーンラインの工事で見つかった地層で、２００万年前に海底で地すべりを起こした地層が液状化した砂に埋もれて隆起したもので、地上で見られるのは大変珍しいそうです。先生も保存のために尽力されたとのお話でした。

千倉では、平磯・千田地区の地震による隆起の痕である海岸段丘を探りながら波打ち際から山のふもとまで歩きました。千倉の海岸に見られる岩礁とそっくりの岩が奥にもあり、かつて海だったことを知りました。南房総の海岸段丘は１５段ほどあり、４００年に一度で地震を繰り返してきたそうです。

最後に尋ねたのは、和田町の威徳院。ここには元禄津波を記録した石碑と犠牲者の供養塔があります。民家より高い場所にあるお寺の石段の上から５段目まで津波が来たとのことです。津波は民家を飲み込んでここまで来たことを、今に伝えています。

巨大地震は恐ろしいことですが、正しく理解してきちんと備える大切さを改めて感じた講座でした。

（文・写真：事務局　宮田明吉）



11月~1月 主催事業現場レポート

大人

房総の古道を歩く
「安房勝山　頼朝巡り」

11/19(土)　安房郡鋸南町
古道、クジラの町、頼朝伝説を巡るハイキング



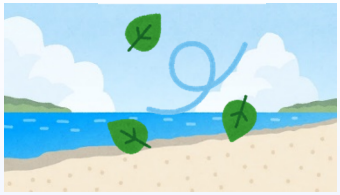
８名の参加者を迎え、晴天の中安房勝山駅周辺の古道を巡りました。案内人はいつもお世話になっている川崎勝丸さんです。国道から１本入った場所がメインルート。頼朝と関係のある安西屋敷跡、田子遺跡に繋がる古道、桜の時期に訪れたい堰を抜け勝山の町へ。

鯨漁の面影を残す鯨塚、いさな通りから海へ…漁村集落はまるで迷路の町。いつも眺めている風景の奥に宝物があるような気がします。ぽかぽかの漁港でお弁当食べ、のんびり過ごしました。

（文：佐藤昭仁／アリ）



海辺は心地よい風が吹き抜けます。
「風は最もやわらかな化石。太古からの贈り物」と
谷川雁　氏の言葉を思い出しました。



予告

房総の古道を歩く⑤
「鎌倉アルプスを歩こう」

2023年3月18日(土)　予備日19日(日)

【参加費】4,500円（プログラム体験費等）
【対　象】山道を4～5時間程度歩ける方
【募　集】20名（最少催行人員8名）







雨天の為、催行中止とさせて頂きました「鎌倉アルプスハイキング」を、ご要望にお応えしては、３月に順延させて頂き実施致します！

ＪＲ北鎌倉駅集合。円覚寺前から紫陽花寺で有名な明月院前を抜け鎌倉アルプスへ入山。建長寺・覚園寺への道を分け大平山へ。

六国峠周辺でお弁当（予定）後、瑞泉寺へ下山。基本アップダウンが少なめなコースです。瑞泉寺より鎌倉駅の途中、頼朝の墓や鶴岡八幡宮、小町通りなど解散時間に合わせて立ち寄りたいと思います。

全行程約８ｋｍ、歩行約５時間（休憩含め）のハイキングをお楽しみに。

【お問い合わせ・お申込み】
南房総市大房岬自然の家　　担当:佐藤　TEL:0470-33-4561　E-mail:event@chiba-ns.net

こども

スノーアドベンチャー

12/25(日)～28日（水）舞子ロッヂウインターポイント
スキー



新潟県南魚沼市でスキーキャンプを実施しました。ぎりぎりまで雪が降っていなく、ドキドキしながらの新幹線移動でしたが…到着してみると辺り一面の雪景色！無事初日から滑ることができました。

初めてスキーをする子もいたのですが、４日間のスキーづくし中で、めきめきと上達していき、最終日には今回が初めてではなかった子たちと一緒になり、みんなで楽しく滑ることができました。

子どもの成長速度や楽しむ力はすさまじいと感じた４日間でした。

（文：清水旭／くま）





丸１日スキーを滑った後は
雪遊びを楽しんでいました。
疲れ知らず！

こども

子ども食堂 雪遊びキャンプ

1/17(土)～9日（祝・月）国立那須甲子青少年自然の家
雪遊び/スノーシュー



「ＮＰＯ法人Ｍａｔｓｕｄｏ子どもの未来へｗｉｔｈ　ｕｓ」さんとのコラボにて、子ども食堂に来ている子どもを対象に、雪遊びキャンプを実施しました。

ほとんどの子が雪遊びは初体験。新雪を踏み、全力でそり遊びをし、夜は雪灯篭を楽しみ…。
子どもの晴れやかな笑顔が忘れられません。

「全ての子どもたちに、自然体験活動を。」
改めて感じた３日間でした。

（文：花嶋桃子／ぽにょ）





大人対こどもの真剣勝負！
結果は…
こどもチームの勝利でした！

≪受託・ネットワーク事業≫

『千葉県・中山間ふるさと活性化チャレンジ事業』

１月末、本事業に参加した高校生による「活動報告会」を実施しました。

当日は３校（旭農業高校、安房拓心高校、君津高校）から２１名の高校生が参加し、それぞれが地域で経験したことをグループに分かれて発表してもらいました。報告会には、地域代表として「ふるさと保全指導員*」の皆さんにも参加していただき、魅力も課題も多い中山間地域で、高校生と地域が連携してどんなことができるかの意見交換も行いました。高校生からも指導員からも積極的に発言があり、時間が足りなくなるほど充実した時間でした。この事業での経験が、今後、彼らが地域との繋がりを考えるきっかけのひとつになればと願うばかりです。



*ふるさと保全指導員
中山間地域における土地改良施設や農地等の有する多面的機能の良好な発揮と地域住民活動の活性化を図るため、土地改良施設や農地の利活用、都市住民との交流活動、普及啓発活動などの地域住民活動に対して、企画・助言・指導を行う者として、千葉県から依頼を受けた者。（現在、約３０名が活動中）

（文：佐藤玲子／かつを）

環境教育関東ミーティング

環境教育関東ミーティングが２/１１（土）～１２（日）、君津亀山青少年自然の家で開催されました。環境教育関東ミーティングは、環境教育の実践者や興味のある方が一堂に会し、参加者自らが分科会を企画し、それぞれのテーマに沿って議論したり、交流を深める歴史のあるミーティングです。

今年度はコロナ禍以降初めての宿泊イベントとして実施しました。北は青森県、南は鹿児島県屋久島からの参加があり、関東と名前がついているイベントですが、大いに交流が深まったようです。参加者の年齢層も、２０代が多く、みなさんリアルでの交流を待ち侘びていたようです。

全国にこれだけ真剣に取り組まれている方がいるのを知ることができて勇気づけられたというお声もいただきました。

１年に１回のイベントですが、今後も継続して実施していきたいと思っております。

（文：白井健／ネギ）





『千葉自然学校ＳＤＧs プログラム』～実体験でリアルに学び 自分ごととして考える SDGs プログラム～

学校現場だけでは難しいテーマも、地域のプロの指導者や千葉県の豊かなフィールドを活用し、学びを深めることが出来ます。「ＳＤＧs に興味があるけれどどうしていいか分からない」「自然体験でＳＤＧs を学びたい」など様々な体験活動のサポートが可能ですので、まずはお気軽にお問合せ下さい。

▲詳細はこちら







（文：佐藤玲子／かつを）

～ きみかめ便り ～

千葉県より指定管理を受け、「君津亀山青少年自然の家」の管理・運営を行っています。清澄山系から連なる自然度の高い森の中に建つ、最大宿泊者数300人規模の施設となっています。プラネタリウムの投影や芝の斜面を生かした芝すべり、カレーや石窯ピザなどの野外調理、思い出のクラフト作成など47種類ものアクティビティをご用意しております♪



千葉県立君津亀山青少年自然の家

千葉県立君津亀山青少年自然の家　　所長　庄司達哉

「叱る依存」

先日参加した研修会の中で、「叱る依存」というキーワードを聞きました。保護者、教員、子どもへの支援者などが、自分で気が付かないうちに「叱る」という行為に依存しがちになるというものです。

「叱る」という行為によって得られるものは、例えばそれまで遊んでいてふざけていた子どもが、「ごめんなさいもうしません」「わかりました！すぐします」など、子どもの行動変容です。子どもの行動を変えたい場合、子どもに何らかの変化を求める場面の声掛けとして、「叱る」というアクションに頼ってしまい、ついつい依存してしまうというものでした。

普段の自分の声掛けに当てはめてみると、すべてではないけれど当てはまる部分はあるように感じました。結果として求めていることは、子どもの行動変容や気づきを持ってもらうことであったにも関わらず、「叱る」という伝え方をしたことで、得られる結果が違うものになってしまったということがあります。

いかに伝えるか…「怒る」と「叱る」は違います。でも時と場合によっては、そもそも「叱る」必要すらないケースも結構あるように感じました。

参考:「〈叱る依存〉がとまらない」　村中直人　著

きみかめ掲示板

【イベント報告】　1月22日(日)　森っこレンジャー④～たき火 de ご飯～



自分たちで火をおこしてホットサンドとポトフを作りました♪きみかめの森からたき火の材料を集めて、薪を組んだら火おこしにチャレンジ。試行錯誤しながらみんなで協力して火を育て、ランチを作りました。

みんなで協力して作ったご飯は格別！森っこレンジャーたちは、またひとつできることが増えました♪

長瀬詩緒里



【自然情報】　春の兆し



まだまだ寒い日が続きますが、きみかめでは春の訪れが感じられるようになりました。きみかめでは「水仙」の芽が出始めました。

水仙は冬の厳しい寒さに負けず、他の花が咲かない時期に花を咲かせるため、「春を告げる花」とも言われています。みなさんも「春の兆し」を探してみませんか？

長瀬詩緒里



～ たいぶさ便り ～

南房総市、千葉県よりそれぞれ指定管理を受け、「大房岬自然の家・食堂」「大房岬自然公園」の管理・運営を行っています。

海と森の両方を楽しめる豊かな自然を活かしたプログラム・イベントが人気で、地元の方や千葉県内の方はもちろん、県外からも多くの方々が訪れます。



南房総市大房岬自然の家　　所長　神保清司

NPO法人日本エコツーリズムセンター（以下エコセン）を運営する皆さまをお迎えしました。コロナ禍を経て各地域では持続可能な観光の在り方が問われているなか、南房総の今とこれからについて多様な視点から、そして俯瞰した視点から意見を交わすことが出来ました。エコセンは、北海道から沖縄まで、エコツーリズム、自然体験活動、環境教育の各分野での国内の第一人者 120 名以上の世話人によるネットワークを持つ事が最大の特徴です。「エコツーリズムで地域を元気に」を合言葉に、世話人が各事業へ参加し、国内各地のエコツーリズム推進団体と協力してエコツーリズムを広げ、エコツーリズムを通して環境の保全と平和な社会を目指す団体です。



https://ecocen.jp/　「エコセン」で検索！

千葉県立大房岬自然公園　　公園長　山口亮介

毎年秋になるとドングリを拾い鉢に植え、苗木として育てています。今回、秋に植えたコナラのドングリが、冬を前にして発芽してしまいました。調べてみると、冬の前に根を出すことはあっても、芽を出すことは稀なようです。枯れないように寒い時は室内に置き、天気のいい日は外に出して育てています。何だか手のかかる子です。これまでにも晩秋にクワガタやセミに出会ったり、冬に夏鳥のさえずりを聞いたり、自然の近くにいると時折こうした不思議に出会えます。そんな自然の不思議、今年も皆様に様々な形でお伝えしていきたいです。コナラの苗木、何十年後かには大木になってくれるでしょうか。



株式会社 体験と健康　料理長　松田光央

（南房総市大房岬自然の家食堂、千葉県立君津亀山青少年自然の家食堂　運営）

新年度から新たな試みで、ジビエ（イノシシ肉）を取り入れたメニューを提供いたします。ジビエとは、狩猟で得た天然の野生鳥獣の食肉を意味する言葉（フランス語）で、ヨーロッパでは貴族の伝統料理として古くから発展してきた食文化です。千葉県ではイノシシの過剰な繁殖が問題となり、有害鳥獣に指定されており、各地で駆除が課題となっています。そんな中、南房総市のお隣の館山市では、農作物等の被害対策として、捕獲したイノシシ等の有害鳥獣を高品質なジビエとして利活用することを目的に、ジビエセンターが設立されました。

大房岬自然の家では、ジビエセンターと連携して、安房地区で捕獲されたイノシシを安全に、そして美味しく提供いたします。食育だけではなく、里地里山の課題や生き物の命について考えるきっかけになればとも思っております。ジビエを食事メニューに取り入れた青少年教育施設は初だと思います。ご期待いただけますと幸いです。

taibusagram

大房岬の
とっておきの瞬間
をご紹介します！



Taibusa-misaki

星空の岬



いいね！355 件

最近、夜空を見上げて星を眺めていますか？冬は空気が澄んで星座や天体を観察しやすい季節です。

大房岬は電灯がほぼ無いため暗い星も見つけられます。望遠鏡を使えば惑星や衛星の観察もできます。望遠鏡を使っていると、星が見えるように位置を合わせても5分もしないでズレていきます。そのたびに細かく調整しないといけないのでとても大変です。しかし、そうして望遠鏡をのぞけば土星の輪っかや木星のガリレオ衛星などを見ることができます。

それらは遥か彼方の距離ですがそこに確かに存在しています。その壮大さがロマンやワクワクにつながるのだと思います。春はもうすぐですがまだまだ夜は冷え込みます。寒さ対策をして、星空を見に行きましょう！　　伏谷海斗

＃冬の夜空　＃望遠鏡　＃天体観測

たいぶさ岬掲示板

イベント報告

岬の楽校「暮らしの知恵を学ぼう～古民家でみそづくり～」

古民家「ろくすけ」でみそを仕込みました。麹をほぐす、塩の分量を計算する、十分に煮た大豆を混ぜる…等々。いつも当たり前に食べている「みそ」が形になっていく様子を目の当たりにしました。

昼食時に、昨年仕込んだ味噌を味見させてもらい「おいしい～」と、自然に出てきた言葉に胸がいっぱいです。自分たちで仕込んだみそも、美味しくできるといいね。　　花嶋桃子



イベント報告

岬で凧あげ！

お正月といえば凧あげ！ということで、自分たちの手で凧を作り、完成した凧を南芝生園地であげて遊びました。冬場は風の強い日が多い大房岬ですが、当日は珍しく無風。凧が上がるか心配している大人をよそに、子どもは無限の体力を武器に、走り回って楽しそうに凧をあげていました。

みんなでお正月遊びを楽しむことができました！

坂井遥



生きもの紹介

フキノトウ

クマが冬眠から目覚めた際に、一番初めに食べると言われている“フキノトウ“。「春の皿には苦味を盛れ」の諺どおり、人間も春に食べるべきと言われています。

フキノトウに限らず、春に出てくる山菜はポリフェノール（苦味）が多く含まれており、細胞を活性化させてくれるそうです。

皆さんも冬の体を脱ぎ捨てるために、春には山菜を食べましょう♪

清水旭



≪ちば・体験活動ネットワーク≫

千葉を元気にする会員校をご紹介！

千葉自然学校は、**ネットワーク型自然学校**として
『自然体験活動を通して千葉県の里山・里海の保全と地域の活性化を目指す』という趣旨に賛同頂いた県内の体験活動団体を中心とした皆様が、**『千葉自然学校ネットワーク会員校』**としてネットワークを形成し、環境保全や地域振興を図ることを目的として設立されました。
県内外からの教育旅行や、拠点である青少年教育施設での体験受入、その他様々な事業連携の取組を行っております。

道の駅とみうら枇杷倶楽部 駅長
（株）ちば南房総 営業企画部長
鈴木洋一さん

里山　里海



館山自動車道の富浦 IC を出てすぐにある道の駅は、まさに南房総観光のはじまりの場所。旅の情報を集めたり、休憩したりするにはうってつけ。カフェや売店では枇杷にちなんだスイーツやお土産も盛りだくさんです。

Q１．道の駅とみうら枇杷倶楽部はどのような場所ですか？

千葉県初の道の駅とみうら「枇杷倶楽部」は、平成 5 年 11 月に産業・文化・情報の発信拠点としてオープンしました。
特産の「房州びわ」と、たくさんの出会いのある「倶楽部」となる願いを込めて命名しました。
平成 12 年には、全国道の駅グランプリで最優秀賞を受賞しました。情報から旅のサポートまで、南房総のランド・オペレーターとなり、たくさんの感動と出会える枇杷倶楽部を目指しています。



一年中、季節の花を楽しめる開放的なカフェ

Q２．コロナ禍での影響や取り組みなど教えていただけますか？

2020 年コロナが始まり、客足がぴたりと止まりました。この年のゴールデンウィークは施設の営業も休止となっています。また、前年に房総半島を襲った台風 15 号の影響も重なり厳しい状況でした。その後コロナの流行に左右され不安定な状況ながら、現在は少しずつコロナ前の水準に戻ってきています。
コロナ禍で様々なことに取り組みました。利用者は 9：1 で観光客の割合がとても多かったのですが、地元の人にも道の駅に立ち寄ってもらうために、地元産の野菜販売を始めています。
また、生産者の方から集荷に伺うタイミングを活用し、地域の独居老人の方や移動が困難な方への野菜販売の定期便なども実施しています。
さらに、地場産品を集約し EC サイトでの販売代行や、パティシエと連携し、規格外となってしまった枇杷を活用したスイーツメニュー、お土産品の商品開発などにも取り組んでいます。
そのほかにも、道の駅で使えるポイントカード制度の導入、個人向けの体験サイトの運用など、コロナ禍でこれまでに取り組めなかったことにチャレンジしています。



皇室献上「房州びわ」

Q３．今後の展望についてお聞かせください

当施設は一次産業無くしては成立しない施設です。原料がなくなったら販売することもできません。特に枇杷(びわ)農家さん、花農家さんの裾野を広げられるような活動を行っていきたいと考えています。
現在は、“枇杷栽培初心者”を対象に枇杷栽培研修『枇杷ゼミ』を開催し、枇杷農家の人材育成も行なっています。後継者の問題など課題もたくさんありますが、少しずつコロナ前の生活様式に戻りつつあります。地域の方の声に耳を傾けながら、観光誘致にも寄与できるような、地域にとって必要とされる施設を目指していきたいと思います。

取材:白井健（ネギ）

里山　農体験　料理

「わたしの田舎」谷当工房
金親 博榮さん、中新井田 拓哉さん



谷当工房は千葉市若葉区にある地名で、周辺は田んぼと畑、山や緑の環境でタヌキやウサギなど野山の動物も多く見られます。そんな環境で加工品づくりやイベントなどを行っています。今回は団体の活動、未来の展望などについてお伺いしました。

【団体の活動を始めた経緯、団体紹介】

「わたしの田舎　谷当工房」としては、1988 年、有限会社カネオヤの設立と同時に発足。3 年後 44 歳でサラリーマン生活にピリオド。伝来の田畑山林等を利用した仕事を興すことを開始。翌年谷当グリーンクラブを発足させ、所有地に知り合いを招き入れ、市民農園、炭焼き、キャンプなどを始め、現在に至ります。

工房としては地域活動がボランテイアをベースにした運営から、有償の持続可能な事業としていくことを目指し、1997 年より、社員を雇用。オートランド、味噌つくりや自然体験イベントの企画を通して、周囲の人々とのつながりの中で、里山活動の NPO 法人バランス 21 の設立。運営にも携わり、千葉市東部地域の活性化のキーワードに、里山、自然体験活動を掲げて活動しています。


大好評のみそ作り体験

【どのような活動やイベントをされていますか？】

農産物加工では千葉県産の原料を使い、化学調味料、添加物、保存料を一切使わない昔ながらの自然食品、天然熟成のおいしくて安心な食べ物作りを行っています。製品の販売及び、「教室」での食べ物つくり体験を市民対象にも開催中です。特に「味噌つくり教室」は、出張も加えて、一番の人気イベントです。従来は冬季限定の開催でしたが、昨年からは、通年の行事として、ツアー会社ともタイアップし、お客様の年齢、地域の広範囲化を図っています。県外、海外からの集客イベントには、積極的に応募し、「楽しい里山・おいしい田舎」を合言葉に、観光地への活動に注力しています。自然体験イベントでは谷当キャンプ場を利用し、新酒の蔵出しに合わせた杉玉つくり、そうめん流しと竹細工教室、バランス 21 の山林整備、田んぼの米つくり、蛍狩りへのコラボなど様々な企画を行っています。



お問合せは下記 QR まで！
「わたしの田舎 谷当工房」

【団体としてのこれからの展望を教えてください】

今まさに、未曽有の変革の時代にあって、如何に生き延びていくかが、問われています。活動を継続させるための人材の問題や SNS などを用いた広報、そして地元との連携など課題はありますが、無理のない範囲で具体化して、「人のためになる」活動として、長く続ける意識を大切にしていきたいと考えています。

零細な活動では「人」には親切に接し、安全、経済、家族、友人、幸福等の相互のバランスに配慮し、共通する基盤としての「信頼」を大切にします。他人を思いやる組織つくりは、持続可能性に必ずやつながるものと信じております。小生は今年 75 歳。谷当と隣接した千葉市更科地区北部 3 町を含む地域全体でも、より多くの継承する人を育てていかなければなりません。

取材：山崎大地（だいすけ）

【北総エリア】

•ワイズスノー＆アウトドアスクール •NPO 法人佐倉みどりネット •一般社団法人千葉県環境財団 •千葉伝統郷土料理研究会 •さんむアクションミュージアム •一般社団法人千葉県観光公社 •ヤックス自然学校（株式会社千葉薬品） •林造園土木株式会社 •株式会社 HMC 東京旅行事業部 •有限会社銚子海洋研究所 •ピーちゃんクラブ•ぬく森くらぶ •食と農の体験工房「よもぎ館」 •国民宿舎サンライズ九十九里 •「わたしの田舎」谷当工房 •スコープジャパン株式会社 •ちば千葉国際コンベンションビューロー •東京クラシッククラブ

【上総エリア】

•Live Stock •上総自然楽校 •千葉県立内浦山県民の森 •NPO 法人大山千枚田保存会 •NPO 法人市津•ちはら台自然学校 •特定非営利活動法人ちば里山センター •NPO 法人里山会 •株式会社かずさアカデミーパーク

【南房総エリア】

•一般社団法人森のようちえんはっぴー •NPO 法人たてやま•海辺の鑑定団 •岩井民宿組合 •白浜オーシャンリゾート •株式会社ちば南房総（道の駅とみうら 枇杷倶楽部、道の駅三芳村 鄙の里、道の駅おおつの里 花倶楽部、道の駅ローズマリー公園、道の駅富楽里とみやま） •千葉県立館山野鳥の森 •千倉町民宿組合 •千倉オレンジセンター

一緒に千葉を元気にしませんか？
会員校募集中！
【お問い合わせ先は裏面をご覧ください】

千葉自然学校スタッフ紹介

伏谷海斗（ふうせん）　南房総市大房岬自然の家



東京都葛飾区出身。実家の近所に「水元公園」という都内では比較的自然豊かな公園があります。こどもの頃は水元公園で虫や魚を捕まえて遊んでおり、生き物が好きになりました。漠然と生き物や自然に関わる仕事がしたいと野外での活動や自然保護などの専門学校に入り、自然の面白さ、楽しさを人に伝えたい！と思うようになりました。



大房岬の豊かな自然で生き物探し！
何がいるかな？

南房総も大房岬も、そして普段の生活の中の小さな自然もとても面白いたくさんのワクワクに満ちています。大房岬に訪れた方にそのワクワクを感じてもらえるお手伝いがしたいと思っています。



【資格】
•NEAL リーダー、プロジェクトワイルド•エデュケーター

【得意分野】
昆虫採集

【好きなこと】
虫取り/ビーチコーミング/釣り

千葉自然学校のミッション



体験活動を通じ
•だれもが人生を豊かに生き、支え合う力を育む
•地域の資源を保全•活用し、次代に引き継ぐ
•ネットワークを充実し、地域の活性化をめざす

千葉県内における自然体験活動団体をつなぐネットワーク型の自然学校として、平成15年より活動を行っています。自然体験を通して、千葉県の里山・里海の保全と地域の活性化を目指しています。

また、ネットワーク会員との連携を強化し、県内全域で幅広い世代を対象とした自然体験活動を実施しています。

ご寄付のお願い～古民家ろくすけの修復に向けて～

そろそろ築 200 年になろうとしている古民家「ろくすけ」。これまで多くの子どもやシニア世代の自然体験・地域交流の場として使用されてきましたが、母屋の屋根の損傷が著しくなってきました。その他、外壁なども劣化が目立っています。今までも皆さまからの協力で修復を続けてまいりましたが、再度ご協力のお願いになります。皆さまからのご支援をお待ちしています。（一口 3,000 円）

▼振込先（郵便局/払込取扱票を使用）
振替口座　00170-5-259431
加入者名　特定非営利活動法人 千葉自然学校
※払込取扱票に以下のご記入をお願いいたします。
【住所氏名欄】ご住所、お名前、電話番号
【通信欄】「寄付」、領収書のご希望有無

▼振込先（銀行）
千葉銀行 千葉駅前支店 普通 3740275
特定非営利活動法人 千葉自然学校 理事長 久保田 康雄
※お手数ですが、ご住所・お名前・電話番号・領収書のご希望有無を千葉事務所（下記）へお知らせください。



発行：**NPO法人 千葉自然学校**
■千葉事務所　〒260-0015　千葉市中央区富士見 2-3-1 塚本大千葉ビル 7 階
電話：043-227-7103／FAX：043-202-7237
ホームページ：http://www.chiba-ns.net　メールアドレス：info@chiba-ns.net